

会員各位

協会だよりー253(1月号)

JCRA(Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

2014年年頭の挨拶

新年あけましておめでとうございます。
会員各社の皆様並びに関係各位におかれましては、健やかに新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、いわゆるアベノミクス、即ち、経済再生やデフレ脱却に向けた金融・財政両面からの政策や民間投資を喚起する成長戦略の推進により、円高が是正され、株式市場も活況を呈しましたが、企業収益の改善や個人消費の伸びなど、少しずつではありますが、明るい兆しも見え始めました。

今年については、国内では、消費増税、TPP交渉、エネルギー政策転換等の課題が、世界では、中国経済の成長鈍化や欧米財政問題等々の不安要因があるものの、総じて、国内外の景況は、緩やかながら回復基調を続けるとの見方が大勢です。産業界に身を置く私達としては、安定かつ持続的な経済回復への期待を強く感じているところです。



触媒資源化協会
会長 三浦 章 米

当協会は、使用済み触媒や廃電子部品等からの貴金属やレアメタルなど希少金属のリサイクル促進に向けて活動を続けています。これらの金属は、日本の産業を牽引する自動車や電子機器などの製造に不可欠な素材として今後一層の需要拡大が見込まれる一方、世界的な資源の偏在による供給リスクがあるため、国内におけるリサイクルの重要性が益々増しています。

しかしながら、当協会の会員各社の貴金属・レアメタルのリサイクル実績をみますと、2011年をピークに減少傾向に転じています。長期に亘る円高を背景とした製造業の海外生産シフトの進展や、IT（情報技術）・半導体産業の国際競争力の低下等により、国内リサイクル原料の発生量が減少していること、加えて、部品の省金属化が進み、リサイクル原料に含まれる有価金属の品位が低下していることなどが要因と考えられます。リサイクルの促進もグローバル競争化の大きなうねりの中で、活路を切り開いていくことが求められています。

経済の回復や製造業の生産拡大を期待するだけでなく、低品位のリサイクル原料から低コストで分離・回収・精製するリサイクル技術の開発や、使用済み製品などのリサイクル原料を効率的に回収するシステムの構築など諸課題の解決に向けて、関係当局や関係諸団体の皆様方と協力しながら、当協会も引き続き努力して参りたいと思います。

日本古来の「もったいない（mottainai）」文化と今日の日本の「最先端技術力」の融合が、日本のリサイクル事業・産業の発展に繋がるものと信じています。

今年は午年です。「左馬（ひだりうま）」をご存知の方も多いと思います。将棋の駒で有名な天童市の置き駒（置物）や根付けとしても知られています。

馬の字が左右反転しているもので、「うまが転じてまう（舞う＝祝いの舞）」や、「馬は右から乗ると蹟く習性があり、必ず左から乗る（＝左馬は倒れない、人生蹟かない）」等々、いろいろな由来があるようですが、いずれも招福のシンボルです。ぜひ、明るく、活力に満ちた1年といたしましょう。

結びに、会員各社の益々の発展と、関係各位並びにご家族のご多幸、ご健勝を祈念いたしまして、年頭にあたっての言葉と致します。

※ J X 日鉱日石金属(株) 執行役員 環境リサイクル事業本部長

トピックス

- 第220回月例会(講演会・新年会)
 日時：平成26年2月6日(木) 講演会 (13:30～15:30) 新年会(16:00～18:30)
 場所：エッサム神田ホール6階(千代田区神田鍛冶町3-2-2) JR神田駅北口1分



山梨県・本栖湖より望む富士

©Takashi Matsuda

- 一. 協会よりのお知らせ
- 【実施済事項】
- 二. 協会よりのお知らせ
- 【予定事項】
- 三. 会員会社・代表者の交代・本社移転のお知らせ
- 経済産業省よりの連絡事項
- 四. 事務局より (一年度の予定)
- 五. 南フランス旅行記(鶴岡武さん)
- 六. 【雑学】野ざらし紀行(甲子吟行) バスの旅1

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① 協会だよりー252 (12月号) をメール&郵便で送信 (12/1)
- ② 第220回月例会幹事会
 日時：12月3日(火)10:30～11:30
 場所：協会事務局(ニュー新橋ビル6階)
 出席：安田薬品・横浜金属・石福金属興業・日本無機化学工業の4社
- ③ 2013年(1月～12月)の触媒資源化実績報告要請 12月20日発送
- ④ 第220回月例会(新春懇談会・講演会のご案内) 12月24日発信

【予定事項】

① 第五回運営委員会

日時：平成26年1月16日(木)16:00～17:00

場所：堺化学工業㈱会議室

出席：運営委員、第220回月例会幹事会社、事務局

議題：第220回月例会の準備、第39期の月例会方針、その他

2. 会員会社・代表者の交代・本社移転のお知らせ

● 新興化学工業株式会社

平成25年12月付けで社長が変わられました。

(前任者) 新居田孝太郎殿 ⇒ (後任者) 西田和彦殿

なお新居田孝太郎殿は同社の特別技術顧問に就任しております。

● アミタ株式会社殿

協会担当の田部井進一さんより本社移転の連絡をいただきました。

新住所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3丁目2番4号

電話 03-5215-8255 FAX 03-5215-8256 (電話、FAX共変更なし)

営業開始日 平成25年12月24日(火曜日)より

3. 経済産業省よりの連絡事項

12/19 【経産省化学課：ご案内】25年度補正予算の概要について

【休憩室コーナー】



12月のJR新橋駅西口のSL広場、SLにはクリスマスのデコレーションと運転室にはサンタクロースが乗っています。協会事務局は広場の西側にあるニュー新橋ビル六階にあります。

4. 事務局より（1月度の予定）

月	火	水	木	金	土
12/30	12/31	1	2	3	4
冬期休暇(12/28～1/6)					
6	7	8	9	10	11
×	○	×	○	×	×
13	14	15	16	17	18
成人の日	鹿島詣で	×	運営委員会	○	×
20	21	22	23	24	25
×	○	×	×	○	×
27	28	29	30	31	2/1
×	○	×	○	○	×
2/3	2/4	2/5	2/6	2/7	2/8
×	○	○	220 月例会	○	×

1 月度の出勤予定：9 日間

5. 南フランス旅行記

2013年8月13日 鶴岡 武

夏休みを利用して“憧れの南仏プロバンスとモンサンミッシェル・ロワール古城8日間”の旅をした。スペインとピレネー山脈を挟む反対側南仏は、歴史上長年ローマの領土であり、沢山の古代ローマ建造物が多い。パリ、ニース、リヨン等で十以上の世界遺産観光が出来た。最初夜中パリを飛び立つのも乱気流が激しく、安全コースを求め左右に大きく迂回し、ガス欠と成り目的地ニース以外の空港に着陸する。機内放送が理解できず心配したが隣席の若い仏人女医が親切に説明し、今マルセイユでニースまで200キロありバスでは大変だが、給油後再飛行する由、翌朝2時に目的地に着く。ホテルで2時間仮眠後旅行が始まった。ニースは世界的リゾート地で高級ホテル、カジノが連なる海岸通りと地中海に面した美しい砂浜は海水浴場で賑わっており、市内と露店の花、野菜市場を散策する。不動産屋を覗くと売り家最高は300万ユーロ（¥4000万円）とある。

シャガール美術館見学後南下し、ゴッホの絵の舞台アルル観光をする。先輩ゴーギャン画家に左耳を切られた首像があり気持ちが悪し、ゴッホの跳ね橋等を見学する。彼は精神病と成り自殺している。ここにローマ王シザーの造った円形闘技場があり、ローマ時代30個余り或る中で唯一完全な形に復元されている。アルルの古代街並みは仏政府の観光政策による高圧水洗浄できれいになっている。

翌日城壁に囲まれた中世の街アビニオン観光をする。世界遺産アビニオン教皇庁があり、1300年から約百年、7代に渡りローマ法王庁がここに置かれた。仏王フィリップ四世の命で教会は大分裂し、一時的に当地が法王庁となった。今は一般開放され二万人の市民が住み、商店街が路方に並んでいる。入口の川に7割出来上がり今まで数百年間未完成の不思議なサンベネゼ橋があり庁と繋がり、付属部屋が法王を閉じ込めた監獄に成ったり船着き場に使用されている。何か日本の南北朝時代に似ている。少し離れた地にローマ時代の水道橋ポン・デュ・ガールがあり高さ40米、全長150米の石ずくりの三階建てで今でも難工事と思われる建造物を、二千年の昔によく造ったものと感じさせられる。頂上を渡り歩いたが、立派な石積みで力学計算を元に製造されており、日本の何の文化もない弥生時代と余りにもかけ離れている。



一休み後バスは仏第二の市リヨンに走る。リヨンでは高台にあるフルビエールの丘から、ルネッサンス時代を偲ばせる旧市街を展望後近くの市民信仰の寺院を見学する。リヨンのホテルでロータリークラブ奨学生梶原君夫妻に会う。夫君は東大、細君は広島大卒で留学先で知り合い結婚、二人とも大学院で博士取得を目指しリヨン大学で研究中であり、短時間だったがお元気で何よりでした。教育と言えば仏では小学（4年）、中学（5年）が義務教育で落第も飛び級もあり、以後大学コースと職業コースに分かれ後者は全体の40%で自分の店らも持てる。ドイツも似たような制度と聞いている。さて、ブルジュに立ち寄りサンテティエンヌ大聖堂を見学後ロワールの古城見学をする。代々女性が城主をつとめ「6人の貴婦人の城」と呼ばれるルネサンスの名城シュノンソー城だ。詳しい説明をみると、仏王未亡人や妾が住んでおり前城主を追い出して自分が住み付いている。

愈々本旅行の目玉の一つで西洋の驚異と称される世界遺産モンサンミシェル修道院に向かつてバスは農村地帯を5時間余り走るも、南仏には広大な畑が広がっている。仏農業は米に次ぐ世界第二位の農産物輸出国で、EUの農業生産額の21%を占めヨーロッパ第一位でありブドウ、小麦、トウモロコシ、リンゴ等がある。仏のブドウは有名だが紀元前フェニキヤ人が持ち込み、ローマによってワインが造られキリスト教と一緒にヨーロッパ中に広がったのがワインの歴史であるし、リンゴ酒“カルバドス”四十度も呑まれている。農家と言えば英仏百年戦争



で大活躍し多くの貢献を仏国にもたらした「ジャンヌダルク」も農村地帯ロンデニ村出身である。残念ながら最後は宗教裁判で男装が罪に問われ極刑の火あぶりに処せられたが、後日名誉回復し聖人とみなされる。以前訪問した米国ニューオリンズに彼女の銅像があり、不思議に思ったがカリブ海に面するこの辺は仏領であり、ナポレオンが米国へ売却したのだ。仏革命後国内が疲弊したのをナポレオン出現でヨーロッパ最強国になったが経済面では厳しかったのかも。今日の走行先はノルマンジー地方である。年配の人は御記憶と思うが、1994年6月米英連合軍がナチスドイツ占領下の北仏ノルマンジー海岸に、ドイツ打倒最終段階を求め上陸した。最高司令官は後の米国大統領アイゼンハワー元帥であり映画にもなっており、当地域に戦争博物館が多い。モンサンミシェルでは荷物をホテルに預け、専用のシャトルバスで修道院入口に行き以後上げ潮でも沈まない歩道を歩き寺院に着く。司教オーベルが708年、海に浮かぶ岩山に聖堂建設したのが始まりで966年修道院設立と成った。人で埋まった階段を最上段迄登り疲労著しいが、周辺の眺望は素晴らしい。此の島に25人の住人が居り内13人は修道士である。謂れのある各部屋を見学後土産物店を散策して宿に向かうも観光客の多いのに驚く年間300万人位来る由。一泊したのでライトアップされた修道院を見ることが出来た。午後10時に日没となり、真っ暗な中に明るく輝き海面に影が映る修道院は昼とは異なり荘厳な感じた。

翌日5時間ほど走り世界遺産“ベルサイユ宮殿”に着く。以前二度程来ているが何回みても素晴らしさに圧倒される。ブルボン王朝の太陽王と称された絶頂期のルイ14世が50年もの歳月をかけて築いた城である。大阪城の8倍の広



さ、部屋数700、数千点の絵画、彫刻、広大な庭、42キロ米の散歩道、55泉水、樹木二十万本と想像を絶する規模であるが、此の完成がルイ16世期にフランス革命誘因の始まりと言える。内部の豪華さは言語に絶し、中でも鏡の間は最も名高い。処で偉大な建造物を見学中に大問題を起こしてしまった。当日は夏休みと日曜が重なりJRの朝並の大混雑であり、人の頭越しに写真を取ろうとした瞬間スリ犯に空の財布とケース入りパスポートを抜き取られた。すぐにジッパーの開いてるのに気付く無いのを知り、愕然となり大騒ぎになった直後、後ろから無くなった二品が自分宛てに投げられてきた。中身を確認したらカードもパスポートもあり、何も取られておらず助かった。添乗員が若い女が投げるのを見ていた由、多分お金が皆無で頭に来て投げつけてきたのだろう。しかし日本のパスポートは高価に売れるらしいのに、裏面で気付かなかったと思う。それにしても稀有な事らしく誰に聞いても信じ難いらしい。



日本語放送がされており、何か自分の事の様で恥ずかしい思いがした。尚パリーの地下鉄は一回1,7EUで距離に無関係で乗換無制限と便利だ。翌日は自由日で朝一番にエッフェル塔前のバトーパリジャンからセーヌ川クルーズで始まった。コンコルド橋、ルーブル美術館、ノートルダム寺院等を見て迂回する一時間の船旅は爽快であった。次に船着き場近くの市内循環二階式オープンカーバス（カー・ルージュ）に乗り日本語イヤホンを聞きながら各地を回った。其の日は一枚のチケットで乗り降り自由で道草を食って又乗れ、最初、長い行列だったがノートルダム寺院観光をし、美術館は以前見学済みなのです通りし、オペラ座隣の百貨店ギャラリー・ラファイエットで（以前松坂屋が一部にあった）パリー銘菓“マカロン”を求め、遅い昼食を館内レストランで済ませた。生ビールから全ての飲食物がピックアップ方式で、会計を済ませ自由席で食べるが¥四千円/人と高価だ。品数で値段を決めるらしく、大量少種だと安価らしい。

隣席に三人の年配イタリア人奥さんずれが居り、少し話したが明るく面白いグループだった。パリーには年間二千五百万人の観光客が来、ホテルも千五百あり、再度訪れた凱旋門はナポレオンが戦勝記念に建造したが完成前に本人は他界している。最後にエッフェル塔に登り市内展望と思ったが、チケット購入が制限され時間的に無理なのであきらめた。この塔は百二十四年前（明治22年）仏革命百周年記念として第四回万国博覧会パリー大会に鋼鉄製の塔として建造された。312米で当時は世界一の高さを誇った。旅を終え夜の便でパリーを発つ、悲喜交々の8日だった。

海外出張150回以上になるが初めての経験である。矢張り油断があった故、猛反省をしている。仲間に強運の人なので宝くじ購入依頼するとからかわれる始末だ。夕方パリーに着き、オペラ座近くで寿司を食べほつとする。店主にも盗品が戻るなどあり得ないと言われた。コンコルド広場からシャンゼリゼ通りを散策したが、途中にパリー博覧会会場に使われた歴史的ドームがある。凱旋門から地下鉄でホテルに戻る。地下鉄駅構内でスリ犯に気をつけるよう



以上

5. 【雑学】野ざらし紀行バスの旅・1

野ざらし紀行は、甲子吟行とも言われ、貞享元（1684）年、芭蕉さんが門人の千里を伴い江戸深川を発ち、出身地伊賀上野へ、母の墓参をした後、関西各地を遊歴して、名古屋、甲州を経由して江戸に戻った旅を記載した俳諧紀行文です。江戸に戻ったのは貞享2(1685)年4月でした。甲子吟行の本文の出だしは「千里に旅立ちて路粮をつゝまず、三更月下無何に入るといひけん、昔の人の杖にすがりて、貞享甲子秋八月、江上の破屋を出づる程、風の声そゞろ寒げなり。」 **野ざらしを心に風のしむ身かな** の句があり、ここより野ざらし紀行と名付けられています。下に故郷まで帰った野ざらし紀行の簡単な行程図を示します。



芭蕉さんは徒歩で旅をしていますが、私たち芭蕉追っかけグループは機動力を利用して目的地へ直行します。今回は大磯「鳴立庵」より箱根早雲寺、三島「三島大社」までの旅となります。次回は富士川より小夜の中山まで行き、丸子の麦とろ飯を頂くようです。11月12日早朝7時30分上野を出発したバスは首都高・東名高速・小田原厚木道路を経由して最初の見学地の大磯「鳴立庵」に到着しました。

《鳴立庵》神奈川県中郡大磯町大磯 1289 番地

バスは国道1号線近くの井上蒲鉾店（鳴立庵見学の後、薩摩揚げを購入）の駐車場に駐車、100mほど離れた場所に鳴立庵があります。庵の直ぐ下は西湘バイパスで海が見えます。鳴立庵の謂れは、鎌倉時代、大磯に立寄った西行さんが詠んだ歌「こころなき身にはあはれは知られけり鳴立沢の秋の夕暮れ」によっています。鳴立庵の近く歩道沿いには、湘南の地名発祥の地の碑があります。藤沢市史によると「湘南」という言葉は、江戸時代の初期に、「相模の国の南の海岸地帯」という意味で用いられた記録が残っています。しかし、今日用いられている「湘南」という地名は、明治時代にはいつて、中国を旅行した文人たちが、湖南省洞庭湖の南岸にある、風光明媚な「簫湘湖南」の地にあやかって、名づけたものです。

ややうす曇で、肌寒さを感じる季節となりましたが、やはり相模湾に面している湘南地方の趣があり、温暖な感じがする所です。



湘南発祥の地 大磯の碑

では、鳴立庵に入ってみましょう（入場料・大人 100 円）。鳴立庵は京都の落柿舎、滋賀県の無名庵とともに日本三大俳諧道場の一つとされています。



境内には沢山の歌人・俳人の歌碑・句碑が並んでいますが、ここでは芭蕉さんの句碑のみを紹介いたします。



円筒形の句碑で四つの句が刻まれています。

- 「みのむしの 音を聞くに來よ 草の庵」貞享 4 (1687) 年 続虚栗
- 「日のみちや 葵かたふく 皐月雨」元禄 3 (1690) 年 猿蓑
- 「はこねこす 人もあるらし けさの雪」貞享 4 (1687) 年 笈の小文
- 「春たちて また九日の 野山哉」貞享 5 (9/30 改元・元禄元年) 1688 年 笈の小文

鳴立庵の見学が終わり、井上蒲鉾店で一枚 70 円の薩摩揚げを 20 枚みやげに購入（ネットでも購入出来るようです）、私達のバスは西湘バイパスに入り、箱根湯本・早雲寺を目指します。

《早雲寺》神奈川県足柄下郡箱根町湯本 405



バスは箱根湯本の街に入り、湯本駅手前の橋を渡り、山手に入ります。湯本小学校の前を通ると、早雲寺があります。山号は金湯山早雲寺といい、温泉の里を表しているのでしょうか。後北条五代の菩提寺として有名です。又境内には芭蕉さんにも多大な影響を与えたといわれている宗祇の墓が建立されています。宗祇は82歳のとき、ここ箱根湯本で亡くなり、その後弟子達により、早雲寺に墓を定めたといわれています。次は徒歩にて坂道を登り正眼寺へ向かいます。



《正眼寺》神奈川県足柄下郡箱根町湯本 562

歌舞伎の仇討ち物で知られる曾我兄弟ゆかりの寺です。本堂の裏手には曾我兄弟を供養するために立てられた曾我堂があります。入口直ぐ脇には、芭蕉さんの句碑があります。



「山路来て なにやらゆかし すみれ草」貞享2(1685)年 大津に出る道、山路を越えて（甲子吟行）



さてお昼になり雨模様の中、箱根の蕎麦処「はつ花」へ向かいます。腹ごなしのためか、箱根湯本駅まで戻り、ちょっと大回りをしてやっと店へ到着。本店は空席待ちの様子にて、私達は新館へ向かいます。大海老二本入った天婦羅蕎麦をいただきやっと一息つきました。

午後は、またバスに乗り、芦ノ湖方面へと進みます。その前に街道よりちょっと入った所にある東光寺熊野権現旧跡に向かいます。江戸時代、賀茂真淵、本居宣長らが集まり歌を詠んだ当時の文化サロン・薬師堂に設けられた茶室が再建されています。

又、この境内には、東光庵々主として元総理大臣・中曽根康弘氏の立派な句碑（くれてなお 命の限り 蟬しぐれ）が建立されていますが、その写真は省略させていただきます。



- 東光寺熊野権現旧跡にある芭蕉さんの句碑（神奈川県足柄下郡箱根町芦之湯）



「しばらくは 花の上なる 月夜哉」
貞享5（1688）年春、吉野にて（発蟬）

この句は、おくのほそ道の旅で、富山県滑川市の櫛原神社の境内や観月苑にも有りました！
また全国、京都府・大阪府を除く27都道県に延70基建立されているそうです。この句は地名が入っていないので花の名所、月の名所の各地で好まれたようです。京都・大阪に無いと言う事もまた珍しい！

熊野権現に別れを告げ、バスは芦ノ湖湖畔を通り過ぎます。平日に拘らず元箱根には観光バスが何台もひしめいています。箱根湯本でも大勢の人々が漫ろ歩いていましたし、やはり箱根は観光地の認識を深く致しました。いよいよ箱根峠を通過して三島方面へと向かいます。

《富士見平》三島市中新田

箱根峠を下って、遥かに駿河湾を望む所に平面地があり、ドライブインの駐車場に付きました。ここが富士見平です。晴れていれば富士が望める、その道路脇には、甲子吟行で詠んだ句の句碑が、どんと建っています。



「霧しぐれ 富士を見ぬ日そ 面白き」
貞享元(1684)年 甲子吟行

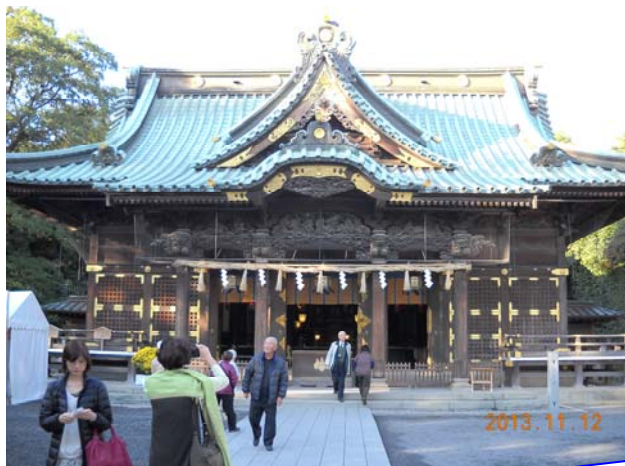
今日は午前中雨模様で、芭蕉さんの句と同じに、富士山は見えませんでした。中々芭蕉さんと同じ心境にはなれません。

三島に向かって、バスは国道一号を下ります。さすが静岡は温暖の地、関東より暖かです。バスでウトウトしている内に三島大社に到着です。

《三島大社》三島市大宮町二丁目

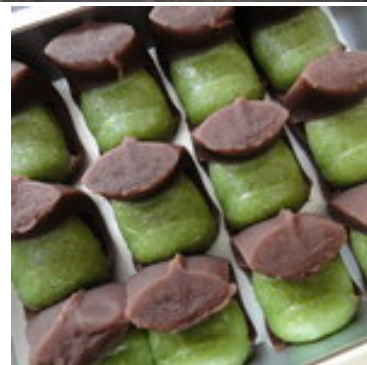
三島大社は伊豆の国一ノ宮、格式のある神社です。七五三の時期でもあり幼児連れの夫婦、爺婆が境内に溢れています。バスを降りると、早速、鳥居の前にある茶店「福太郎餅」へのお姉さんの呼び込みです。小耳に挟みながらも先ずは本殿へお参りし、次いで本命の境内に建立されている芭蕉さんの句碑を見学です。

次いで、先ほど呼び込みの茶店「福太郎餅」へ。伊勢の「赤福餅」に対して、三島大社の縁起餅「福太郎餅」はヨモギ餅なので緑色、餡は烏帽子のごとく餅の上に載っています。2個、お茶付きで200円で



「どむみりと あふちや雨の 花曇り」
元禄 7(1694)年 芭蕉翁行状記

したが、集合時間が迫り餅だけ購入し、急いでバスの中へ。バスに乗ってから賞味いただきましたが good な味でした。右の写真は HP より参照させていただきました。



《蓮馨寺》三島市広小路

本日最後の見学先、蓮馨寺へと向かいます。JR 三島駅の近く、街中にある鉄筋コンクリート三階建ての立派なお寺です。

境内には「芭蕉老翁墓」と刻まれた墓があります。その側面に句が。「いさともに 穂麦喰はん 草枕」貞享 2(1685)年 (甲子吟行)



住職のご説明の後、お寺の集会室でお茶と菓子の接待を受けました。銘菓「三島桜」紅白の2個、大事に土産といたしました。次回は12月11日、富士川からの旅となります。

【文責・専務理事】